

2022年度【丹波】ブロック活動報告

ブロック代表理事氏名（滝本 典子）

■活動目標

- | |
|--|
| 1. 訪問看護の質の向上を図る。 |
| 2. 訪問看護ステーション間の連携強化を図り、課題を明確化し課題解決に向け取り組む。 |

■活動内容

1. 定例連絡会（管理者・役員会）

回	開催年月日	主な討議事項	出席者数
1	2022年4月16日	訪問看護部会報告、研修会について、情報交換（BCP進捗状況、感染管理、虐待防止委員会開催及び指針の整備状況、安全運転管理者の選任について等）	14名
2	2022年7月23日	訪問看護部会報告、研修会について、情報交換（au通信障害時の対応について等）	12名
3	2022年10月15日	訪問看護部会報告、情報交換（災害マニュアルについて等）	12名
4	2023年1月21日	訪問看護部会報告、情報共有（ターミナルケア加算の同意書、エンゼルケアについて、「SANDA訪問看護の会」立ち上げについて）	14名

2. 総会 なし

3. 研修会

1) ブロック独自研修

研修会名	開催年月日	場所	講師	参加者数
在宅における認知症看護	2022年11月26日	Web	伊藤美雪	45名

2) その他研修会

研修会名	開催年月日	場所	講師	参加者数
丹波医療センター総合診療医師と介護関係者との勉強会	2022年4月26日	兵庫県立丹波医療センター	清水健史	60名
家庭医療って知ってますか	2022年11月8日	氷上住民センター	中西潤	
認知症対応力向上研修	2022年11月17日	兵庫県看護協会	舟川格	30名
訪問診療医の視点からみた連携について考える	2022年12月10日	三田市総合福祉保健センター	栗根雅章	40名
さんだ在宅スキルアップ研修会	2023年1月15日	三田市総合福祉保健センター	山形譲二	60名
阪神圏域相談支援フォローアップ研修	2023年3月6日	Web	山崎健太	70名
在宅医療・在宅ケアを支える連携力	2023年3月25日	西宮市山口ホール	福田康文	60名

4. 交流会

開催年月日	場所	内容	参加者数
2022年11月24日	丹波医療センター	地域連携ミーティング これでもいいのか療養指導、看護サマリー	40名
2023年2月7日	健康センターミルネ	コロナ禍の在宅療養を考える	25名
2023年2月9日	丹波の森公苑	地域が抱える薬に関する問題について一緒に考えよう	53名

5. 地域の関連機関との連携及び会議等の出席に関する事項

会議名	開催年月日	場所	出席者氏名
丹波市介護保険サービス事業者協議会	2022年5月20日 2022年7月15日、11月18日、2023年1月20日、3月17日	春日住民センター ハートフルかすが	滝本典子
三田市在宅医療・介護連携推進会議看取りワーキング会議	2022年5月25日 2022年8月23日 2022年11月10日、2023年1月12日、3月9日	三田市民病院 Web 三田市民病院	森裕紀子 ジョーンズかおり 森裕紀子
阪神北地域医療構想調整会議	2022年9月1日 2023年2月9日 2023年2月20日	伊丹シティホール 西宮市民会館 東りいたみホール	吉野尚美
丹波篠山市地域自立支援協議会、医療的ケア部会	2022年5月26日 2023年2月2日	スマイルささやま 丹波篠山市役所	赤井文美代
終末期医療・介護に関するワーキング会議	2022年6月23日、10月13日	丹波篠山市民センター	赤井文美代
丹波圏域看護業務連絡会	2022年8月23日 2023年3月2日	柏原総合庁舎	赤井文美代 滝本典子
三田市立学校に医療的ケア運営協議会	2022年8月	三田市南分館	ジョーンズかおり
丹波篠山市在宅医療介護連携推進協議会	2023年3月3日	丹波篠山市四季の森生涯学習センター	赤井文美代
丹波市医療介護連携会議	2023年2月9日	丹波市役所	滝本典子
さんだ在宅医療ネットワーク	毎月末金曜日	訪問看護 ST つな樹	伊藤慈子

6. その他の報告内容 なし

■活動の評価

1. 感染状況に応じWeb使用や集合での定例会を開催し、情報交換を行うことで、現状を共有することができた。また、ブロック研修会では「在宅における認知症看護」について認知症看護認定看護師より、困難事例を交えた講義を受けた。認知症の方、その家族を支えるための基礎知識を深め、実践的な対応力を学ぶことができ、よりよい看護実践につなげることができた。
2. 定例会や地域の研修会、交流会を通し情報共有を図ることで、問題や課題を明確化し、問題解決に向けての話し合いができた。また、地域の特性を踏まえたネットワーク作りの重要性、感染や災害時等における各市単位での連携のあり方について検討することができた。今後も各ステーション間の情報交換を行い、問題を共有することでブロック内の課題の明確化が図れるよう連携を継続していく必要がある。